

## 令和4年度第5回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録（案）

開催日時：令和5年1月16日（月）13：30～15：00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室（オンライン参加者有）

出席委員：中島康予委員、木本喜美子委員、神山直子委員、鈴木景子委員、ジョギョウバイ委員（オンライン出席）、本間まり子委員、真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：神子島健委員

各課ヒアリング対象課：子ども家庭支援センター・田島センター長、福祉総務課・松崎課長、生活福祉課・松田課長、門倉係長、健幸まちづくり推進室・原島室長

事務局：古谷部長、河島課長、齋郷係長、米山主任

傍聴者：1名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

### 次 第

#### 1 前回会議要点録（案）の確認

##### 事前配付 令和4年度第4回審議会要点録（案）

◇意見なしのため、内容を確定する。

#### 1 〔協議〕所管課へのヒアリングについて

資料2 令和4年度多摩市男女平等参画推進審議会における提言テーマに関する質問事項について（回答）

資料3 令和4年度多摩市男女平等参画推進審議会における提言テーマに関する質問事項について（依頼）

資料4 過去の審議事項一覧

資料5 困難な問題を抱える女性への支援のための施策に関する基本的な方針（案）

その他 相談窓口のご案内（健康福祉部健幸まちづくり推進室）

◎これより第5回多摩市男女平等参画推進審議会を開催させて頂く。それでは、手元にある次第に沿って、進めてまいりたい。議題1「所管課へのヒアリングについて」である。

事務局から事前に配布された資料2「令和4年度多摩市男女平等参画推進審議会における提言テーマに関する質問事項について（回答）」をご覧いただきたい。質問事項について、回答というところで、今資料の差し替えを待っているところである。この間に、事務局から説明をお願いしたい。

◇当課では、多摩市男女平等参画推進審議会において、「多摩市女と男の平等参画を推進す

る条例」第20条3項による重点評価項目に関する所管課へのヒアリング・意見交換を実施しているところである。令和元年度から令和3年度までは、女と男がともに生きる行動計画、推進状況評価報告書の改訂、また、新型コロナウイルスの発生状況を考慮して、各課のヒアリングを見合わせてきた経緯がある。そのため、本年度は、4年ぶりに各課ヒアリングを実施するものである。本日は、子ども家庭支援センター、福祉総務課、生活福祉課、健幸まちづくり推進室の4課の皆様にお越しいただいている。恐縮だが、個々に自己紹介をお願いしたい。

〔市所管課長〕 自己紹介

〔審議会委員〕 自己紹介

◎本日の質疑の進め方だが、ご相談したいのは、まず全体一括で質問と回答を読み上げて、それから再質問とするか、少しずつ区切って、ある程度まとまったところずつ、各課からご説明を頂いて、それぞれ再質問するか。また各課の都合で、遅くとも15時までには会議を退席されなければならない方もいらっしゃるので、どのようにお諮りするか決めたいが。

○後者の、少しずつ区切って、ある程度まとまったところずつに各課からの説明と回答をして、再質問をする形で進めたい。

◎では、時間のバランスを見ながら、そのようにしたい。

◎改めて、委員の皆様には、前出の委員質問に対して各課から回答を頂戴しているので、ある程度まとまったところまで各課からご説明を頂いて、それから私共の方から、再度質問をさせて頂くこととしたい。

◇〔配布資料2（1）【コロナ渦での相談内容の変化について】、事務局から説明〕

（書面内容による所管課からの回答の説明）

（質疑）

○子ども家庭支援センターに対して、件数の増加についての状況は分かったが、週に1回確認するとはすごい作業量だと思うが、実際にはどのような形でヒアリングを行うのか。

〔子ども家庭支援センター〕要保護、虐待などリスクが高そうな家庭については、週に1度電話をして安否確認、保護者が煮詰まってしまうように、話を伺う等、こちらからアプローチをかけている。電話では、子どもと直接話すのではなくて、保護者と話している。コロナ渦においては、保護者の出勤がないなど、煮詰まってDVにつながるケースも多いので、子ども家庭支援センターは、コロナ渦でもずっと開庁していたので、状況によっては来庁してもらい、相談にのっていた。

○コロナ渦の時期に、このような状況が現れたと考えてよいか。

〔子ども家庭支援センター〕日中はそれぞれが出かけることにより、ストレスの緩和がなされていたところもあると思うが、コロナ渦で朝から晩まで1日中家にいるような場合で、

難しいお子さんもいらしたりすると、その中で仕事をしながら、または仕事がなくずっと家族が一緒にいるケースなどもあり、お互いイライラしてしまう、というケースも見られ、これはコロナ渦特有のケースであったと思う。

- ◎これは、福祉総務課にお伺いしたい話だが、コロナ渦によって浮かび上がってくる問題もあったと思うが、コロナ以前からあったような問題が、コロナ渦において、より鮮明に浮き彫りになるというか、しかし、今終息といえる状況ではないが、社会的にも落ち着きが出ていてきている中で、引き継いでくる問題として、仕事、住まい、家庭に出てきている、という把握でよろしいだろうか。コロナ以前、コロナ渦、コロナ以後において、どのようにリンクして、困難の内容を捕まえていくのかというのが、我々審議会の課題でもあるので。

[福祉総務課] コロナ渦において、コロナ渦を理由として仕事が閉ざされてしまうことにより、生計がなりたたなくなる。それによって、仕事が順調にいかなくなる、収入が減少する、というような一連の流れはあったと考える。それにより、家賃が払えなくなる、住まいを失う恐れなど、コロナ渦によってより顕著になってくるケースが見られた。しかし、そのなかでも相談を受けながら生計の立て直す力のある人と、コロナ以後においても引き続き困窮を抱える方に分かれていると感じている。

前者の方々は、コロナ渦において問題が現れたケースといえるが、そうでない方は、コロナ渦以前から、生活の困難がある方で、コロナを脱してもその状態が継続してしまっている。生活の改善という側面からは、よりシビアによりなっていると受け止めている。そのため、困窮が長引く方に対する支援が課題と所管としては感じている。

- 困窮が長引くということは、コロナ以前も落ち着いた状況ではなくて、コロナで直撃を受けて、その後もインパクトを受け続けている、コロナ以後もより厳しい状況に落ち込んでいく危険性を持っている層である、といえるか。逆に自力で立て直せる人というのは、比較的安定職についていたということだろうか。

[福祉総務課] 詳しい分析は行っていないが、生活困窮者の自立相談支援を行っているしごと・くらしサポートステーションの相談支援の方に話を聞くと、長期間、就業していた経験のある方は、次の仕事をみつけて軌道に乗っていきやすい、立て直しやすい、と伺っている。

- なんらかのネットワークを持っている方、今までの仕事の絡みで、つてがあってという風に考えてよいのか。相談する資源も含めて。

[福祉総務課] 一概にそうとも言えないと考えている。雇用主側の意識としても、長期に就業していた経験のある方は、雇用しやすい側面があるのではないかと聞いている。マッチングしやすいといえるのかもしれない。

- このようなデータを数字として頂く際に、審議会として「困難なひと（女性）」に対する支援についてお聞きしているので、男女の数字の違いを教えてくださいと、また印象でも構わないのだが、特に女性達が困難に感じているはどのようなことなのか。また

LGBTQ+の問題も併せて、何か課題があったり、目に見えて特徴があるようであれば、お聞きしたい。

[生活福祉課] 生活保護等のご相談を受け付けるに当たって、男女別の分析は行っていない前提があるが。

[福祉総務課] 印象としてだが、生活困窮者の傾向として、給付金制度では、基本的には生計の担い手が申請者となる。そうすると、必然的に男性が多くなる傾向になる。

例として、住居確保給付金の令和3年の申請状況を男女別で、全申請者63人のうち44人が男性、女性19人であり、2/3が男性、1/3が女性ということとなった。相談に関しても、男女別で把握していないが、たぶん同じような割合と思う。

○他に困難な人たちで、印象でも構わないが男女別で訴えの内容の違いはなにかあるか。

[福祉総務課] こちらも印象としての話だが、女性は相談内容が多岐にわたることが多いと相談員からは聞いている。住まい、収入、仕事だけではなく、家族、子育てについて等、生活に関することを幅広くご相談される方が多いようである。

[生活福祉課] 生活保護についても、男女個人ではなくて、世帯単位で原則考えていくので、世帯でどのような困窮が訪れているのか、というところで考えていく。生活保護の約半数は高齢者であり、高齢者はコロナ渦などでも真っ先に雇用が切られる場合も多く、精神疾患により働けなくなる、けがにより働けなくなる場合も多い。男女、関係ないという印象だ。

[生活福祉課] 男女の比率という話ではないが、ご主人が主になって働き、女性はサポートして働く、というご家庭のケースも多いと思うが、コロナ渦によって、女性の雇用が切られてしまい、これまでの生活がままならないというケースが多数みられた。しかし、生活保護は、これまでの生活を維持する制度ではなく、国の決めた最低生活という生活保護の基準に照らして、それ以下の方にしか対象にならないので、ご相談をいただくが、生活保護の対象にならないケースも多数見られた。

また、生活保護になった方については、自営業が多い印象がある。特に、集客をあつめて営利を取るブライダル業など、コロナ渦において、大きな収入が見込めない、本来受けなくてもいいような方々が、生活保護の相談にこられる場合が多いように感じた。

また、生活保護の申請を受けるうえで、病気で働けない、母子家庭、など理由の分類をとるが、どの枠にも該当しないケース「その他世帯」がコロナ渦による徐々に増えていると感じる。困難のある世帯、と見て取れるのではないかと思う。

○基本的には、傷病、高齢、母子家庭ということで分析をされている、ということですね。

○その他世帯が増えているとは？

[生活福祉課] 主になって働けなくなる、急に亡くなってしまうとか 主になって入ってくる収入が減ってしまったなど、何かしらの困窮する理由が通常の生活保護を受給する傷病、高齢、母子、に該当しない方で、生活保護基準の世帯が増えた、ということである。

○コロナでなければ、働くことができたものが、できなくなり、一定の水準を保っていた者

が、働くことができなくなったということか。

[生活福祉課] 働く意欲はあるが、仕事はないんです、というケースである。コロナになってから、飲食業で働く人たちが当てはまると考えられる。

◎コロナ渦において、厚生労働省が、国民に対して、積極的に生活保護を利用するようアナウンスしたのが印象的だったが。

[生活福祉課] 国のアナウンスは、市民に対してもインパクトがあったと思われる。コロナ渦では、通常の生活を営んでいた方も、ブライダル業界など、いきなり生活保護になってしまうという事例もあった。通常の場合は、生活困窮者自立支援制度を使って、資金の貸し付けなどを受けながら、徐々に立ち直る、という支援の流れであるが、コロナ渦においては、いきなり収入が途絶え、生活保護となる、というケースもあった。

◎まとめると、申請者は2層に分かれている、1つは自力をもって立ち直ることができる世帯であっても、コロナ渦によって生活保護になってしまうケースもあったが、そのような世帯は比較的立ち直ることができるが、もう1つは、コロナ渦であることを理由としない貧困による世帯で、こちらは長引いてしまう、という認識でよいのか。

[生活福祉課] 生活保護制度には、まず市民の生活のセーフティネットという側面と、もうひとつは自立支援という側面の、車の両輪がある。自立支援とは、就労だとか社会生活におけるサポートをしながら、本人のやる気を醸成していき、自立につなげていく形である。

○男女の区別について把握することを、子ども家庭支援センターでは行っているのか。

[子ども家庭支援センター] 男女別で集計していない。子ども家庭支援センターにおける虐待の対応、と一般的な子育ての相談、虐待については、「虐待者」がどの種別かという集計は取っている。実父4割、実母5割といったところか。そのほかの集計などは行っていない。印象としての話になってしまうが、女の子についての相談は、母親から来るものが多いと感じている。

◇次に進めさせていただく。(2)、(3)の設問をご覧いただきたい。

◇〔配布資料2(2)【早期発見につなげる方針について】、(3)【早期発見の成功事例について】、事務局から説明〕

(書面内容による所管課からの回答の説明)

(質疑)

○多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会、令和4年度からということだが、期待が持てる事業であるなと思っているが、まだ実施から日が浅いが、実際の会議の場面での工夫されている点や、試行錯誤されている点などをお聞きしたい。今もうすでに動いているのか。

[福祉総務課] 今は準備会という形で実施しているところである。福祉総務課等の福祉分野や子ども関係の部署や、社会福祉協議会等、市以外の部署も含めて代表者会議を行い、お互いの情報交換や課題認識の共有を行っている。またエリア別課題交換会とは、地域の

方々、各エリア単位で、例えば永山の地域包括のエリアの関係者で、市の機関の他に、社会福祉協議会などそれぞれの担当者が顔合わせを行っている。多くは2者で話し合うが、他部署も含め、多人数での顔合わせを行う。この様なことはなかなか行わないので、改めて一度お会いして顔を合わせると、その後も相談しやすく、親近感も増すような効果を感じている。まだ試験的な取組の段階ではあるが、参加者からは好意的な感想を持っていた。また、個別ケース対応の場合は、個人情報共有できるような仕組みを作り、これまで個人情報の問題でうまく動けなかったところが、関係機関が情報を共有してスムーズに動くことができるようになってきている。南多摩保健所、多摩中央警察署、福祉総務課、生活福祉課、高齢支援課、障害福祉課など、支援に関係する機関が一堂に顔を合わせて、対象者の情報を共有する。そのなかで、先頭になって動く課を決めて、福祉総務課がマネジメントしながら、支援においては、一斉に動くのではなく、タイミングでケースの支援を行う必要があるので、必要な時に必要な機関が支援を行うような体制となっている。

◎みなさん好意的に取り組んでおられるということは、そのような問題点を強く感じておられたのだろうか。

[福祉総務課] そう感じている。相談支援は連携できる体制が大切であり、安定的に支援を行う必要性があると感じている。

○有難いことであると思う。何年か前に関係者がお世話になった時も、市の機関全体で情報を共有しておられて、間を置かず皆さんで一斉に動き出す体制があり、大変有難いと思った。多摩市は元々そういう土壌が築かれているのがすごいと思う。そういった土壌に加えて、このような体制があると、一般的な広報があり、それをみて応募するのではなくて、実際に救われた成功事例があって、本当に有難かったといっている人がいるので、自分も相談に来た、という人もいると思う。悩みがある人たちはそれぞれ繋がっていることも多く、どこに相談したらよいかわからない人達もいると思う。事例は多くないのかもしれないが、相談者が実際に救われて、それを聞きつけて相談が広がっていくような流れが加速していけたら、大変有難いことだと思う。

○さきほど、子ども家庭支援センターの方で（早期発見の成功事例について）説明があったが、市の機関で連携して、子育てに関する主訴であった相談が、定期的に親子面談を重ねる中で、課題が浮き彫りになり、DVとして、対応したという事例があると伺ったが、シェルターなどは、市が借り上げたり、斡旋しているものであるか。

[子ども家庭支援センター] 自治体の長い歴史の中ではそのようなこともあったが、今は多摩市ではない自治体への移動であったり、親族の関係も配慮して、関係機関と連携して対応を行っている。

◇TAMA 女性センターでも「女性の悩みなんでも相談」において、お話を聞きながら、本人も自覚していないリスクをキャッチして、適切に他へ繋げている事例もある。子どものいるケースなどは、子ども家庭支援センターとTAMA 女性センターも密に連携して取り組

んでいる。

○それぞれの課で連携し、ネットワークがあるということだが、その後の伴走支援は行っているか。

〔子ども家庭支援センター〕行っている。ケースの進行管理は、週1で行って、チームでフォローしている。児童相談所でもモニタリングしているところである。

〔福祉総務課〕生活困窮の方に向けた自立相談支援として、自立に向けたプログラムを担当者とともに立てて、伴走支援を進めている。また、さきほどお話しした個別ケースの事例検討、多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会については、まだ制度をつくっている段階なので、この先どのようにケースを管理していくかということは、高齢支援課で実施している地域包括ケア会議や、子ども家庭支援センターで実施している相談支援のあり方等を参考にしながら、制度構築を進めていきたい。

〔生活福祉課〕生活保護を受けている方は、大勢いらっしゃるのですが、その全ての方ではないが、必要な状況の時にはケースワーカーが時間を取って、本人に同行するなどの支援は行っている。

◇次に進めさせていただく。(4)～(9)の設問をご覧いただきたい。

◇〔配布資料2(4)【行政間等の連携について】、(5)【措置後のモニタリングについて】、(6)【担当職員への研修について】、(7)【乳幼児の事件について】、(8)【ファミリーサポートセンターについて】、(9)【食糧配布について】事務局から説明〕  
(書面内容による所管課からの回答の説明)  
(質疑)

○(担当職員への研修について) お伺いしたが、皆さんの専門知識はリスペクトしているが、ジェンダーの専門家として、全国の事例として性的マイノリティの相談者が相談機関でたらいまわしになって困っているという事例も伺う。女性センターだけでなく、他部署においても、市民対応を行う上で、アンコンシャス・バイアスとかジェンダー問題について見識を深めるような研修は受けているか。

◇まず新人職員全員に対して、男女平等研修を定期的にTAMA女性センターと人事課で協力して行っている。

○研修について、お願いというか、係長級の方や課長は全く心配ないが、一般職員や時間外の警備員の対応などで相談者は心が折れるという話を聞いたことがある。実際に相談者が役所から明日にしてください、と言われ、今、苦情をお伝えした職員の方と電話が切れてしまってその続きなんです、といっても、時間なので明日にしてくださいと。明日の1000円のお金に困っている相談者もいるので、あなたじゃない人に相談したい、と言っているのに、明日も私が担当しますなど、困っている方も多いと聞く。

◎ここで、残念だが時間となってしまった。質疑に不足がある場合は、メールや書面におい

て、追加で質問させて頂きたく思う。引き続きよろしくお願いしたい。

以上